

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

法政

大学

藤澤

ゼミ

5

パート

16

部門番号

部門名

環境破壊論

テーマ

ヨーロッパと日本の環境対策の比較

サブテーマ

環境問題の今後

趣意文

近年、全世界において環境問題が深刻な問題となっており、特に地球温暖化が急激な勢いで進んでいる。

そのため、私たちは環境問題について研究し、それに対するヨーロッパと日本の対策を比較している。

ヨーロッパでは、サーキュラ・エコノミーという考え方を柱としており、高い意識で環境問題に取り組んでいる。また、世界に目を向けるとパリ協定が存在し、世界の関心も高まっている。

そして、私たちはヨーロッパの環境問題への考え方や対策と比較して、日本の考え方や対策の優位点や改善点などを議論したいと考える。

また、今後環境問題を解決していくにはどうすべきかも議論したいと思う。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

國學院 大学 根岸毅宏 ゼミ 大泉班 パート

16

部門番号

部門名

環境破壊論

テーマ 環境保護と政策

サブテーマ 循環型社会に向けたプラスチック問題と対策

趣意文

現在、海洋汚染をはじめとしたプラスチック問題が世界的に注目されている。そこで、この論文では、使い捨て経済から循環型経済へ移行させるために、日本のプラスチック処理について検討し、回収率の向上及び国全体のプラスチック問題への意識を高めるための施策を提案する。

結論としては、高度な技術を持つ日本が先陣を切り、プラスチック対策を進めていくべきだと考え、それに必要な財源を確保する為、私達のチームはまだ世界で実施されていないプラスチック税の導入を中心とした提案をする予定である。

本論文で検討する具体的な内容は、第1に、日本が抱える課題であるプラスチックの本質、特徴について分析する。第2に、日本をはじめとしたプラスチック問題の現状・課題を検討していく。第3に、課題解決のために世界で実施されている政策や制度の比較・検討をしていく。以上のことから、新たなプラスチック税の導入などの提案に繋げていく。プラスチックの導入により、リサイクル率の向上や処理方法の改善など今後の更なる取り組みへ向けた財源確保と国全体の意識が向上することが期待される。